安寧

夜明けの御本殿（撮影：前川英昭）

兵庫縣姫路護國神社社報
「安寧」第十九号
発行所　兵庫縣姫路護國神社
〒六七〇―〇〇二　姫路市本町一一八
電話　〇七九―二二四―〇八九六
安寧（あんねい…世の中が穏やかで平和なこと）

明治維新150年（平成30年）
当社はご創祀125年ご鎮座80年を迎えました

ホームページアドレス　http://www.himeji-gokoku.jp/

英霊の言乃葉
妻への便り

陸軍伍長　野尻　司命

昭和十九年四月二日
ビルマにて戦病死
愛知県出身　三十歳

その後変りありませんか。私も相変らず、この田舎町の警備についてゐます。何の変りもなく……

弘美は大丈夫ですか、靖彦はどうですか。

もう歩けるかしら等と、時々夢に見ます。

内地と異つて、何時弾丸が来るか判らない全くの敵地、元より、命は捧げてはあるものの、何時でも思ふものは優しい妻であり、可愛い子供であります。

強い日本の女性として、否日本軍人の妻として、石よりも固い決心を持つて何事にも打勝つて下さい。

そして靖彦も弘美も、立派な人間に育て上げてやつて下さい。

よくある話にも、その蔭にかくれた涙ある事を知つてゐます。お前ならば必ず誰にも負けない妻であり、母であつてくれると確信してゐます。

何一つの心配もなく、かうしてご奉公出来るのも、一つにお前様のお蔭と、何時も感謝してをります。

では弱い身体、充分寒さに気をつけて、元気に暮らされる様、戦地からお祈りします。

草々

野尻しの様

明治維新百五十年（平成三十年）は、ご創祀百二十五年　ご鎮座八十年

護國神社のご祭神については明治のご維新と大きくかかわりがあります。地元の勤皇の志士をお祀りしたのが祭祀の始まりです。

本年は明治元年（一八六八年）より百五十年、兵庫縣姫路護國神社の祭祀が始まって百二十五年、現在の社殿が建立されて八十年の節目を迎えます。

日本で最古の歴史書古事記序文には「稽古照今」という言葉が出てきます。いにしえに学んで将来の指針を見出すという意があります。節目の時こそ正しい歴史を振り返り、未来へつないでいかねばなりません。

明治から大正、昭和にかけては、明治維新の大義に基づき、靖國神社、湊川神社をはじめ、平安神宮、明治神宮、橿原神宮、乃木神社、東郷神社、各地区の招魂社そして護國神社が設立されていきます。当社では節目の年に当たり次の事業を行います。

崇敬者の方々のご協力をお願い致します。

事業計画

一、祭　典

ご創祀百二十五年ご鎮座八十年祭（秋季大祭）十一月二日

明治維新百五十年祭　十一月三日

二、顕彰事業

明治のご祭神、市内の縁ある地、施設の研究及び冊子の作成

明治の精神　講演会・地元第十師団の顕彰

三、整備事業

鳥居前昭和天皇駒札の修理　・神社境内・森林の整備（憩いの場所の設置）

事業予算　五千万円

護國神社には氏子がいません。国家に殉じた方々を祀る神社を一人一人が支えていかねばなりません

崇敬奉賛会では、大切なお社の事業のために募金活動をいたします。趣旨にご賛同いただける方々のご浄財を募ります。宜しくお願い致します

奉賛金　1口　5,000円

兵庫縣姫路護國神社

崇敬奉賛会　会長　三宅　知行

総　代　会　会長　大川　久夫

宮　　司　　泉　　和慶

新年万燈講

百人であれば百燈、千人であれば千燈、
万人であれば万燈

護國神社のお正月の境内は二千燈の提灯で飾られます。この献灯は昭和五十三年から神様のお庭をお正月に明るく照らし心和やかに心安らかに新しい年を迎えようと始めました。当初は参道の両側に三百灯程でしたが、戦没者のご遺族にはご自分の縁の祭神を記して献灯しようとの機運が盛り上がり、二千六百灯を越える奉納がありましたが、戦後七十年を越え、減少傾向となりました。そこで一般崇敬者の方々にご奉納を呼びかけし、二千灯を維持しております。この度、より一層大勢の方々にご奉賛いただき新年万燈祭を永遠に続けていこうと崇敬奉賛会によって**新年万燈講**が始められました。講に入会の方には、社報「安寧」のご送付、大祭のご案内、そして毎年十二月二十七日午後五時の試験点灯にご招待、成人の日に行われる新年祈願祭にご案内申し上げます。ぜひ美しいお正月風景の維持にご協力下さい。

新年万燈講　一口　五千円

なお、奉納者の御氏名を記載する献灯は、一万円の初穂料となります。

お志のある方は社務所へ

平成二十九年度 秋季慰霊大祭 十一月二日斎行

午前十時半、秋の澄んだ青空の下、祭典開始の号鼓の音が鳴り、宮司以下祭員、参列者代表が本殿へと参進する。境内には六百名程のご遺族と崇敬者がご英霊を偲び祭典を見守っている。

御霊の御前には米・酒・海川山野の神饌に加え、茶道裏千家淡交会播磨支部・播磨青年部の方々の奉仕により点てられたお茶・お菓子が献ぜられる。

献茶の儀の後、宮司が祝詞を奏上。大川大祭委員長・釜谷奉賛会副会長・柿原兵庫県遺族会会長により祭文が奏上され、先人のご遺徳を偲び、祖国の安寧を願う。

姫路市民合唱団からは「旅愁」「もみじ」が軽やかな歌声で奏でられる。ご遺族代表・参列者代表による玉串奉奠の後、最後に宮司挨拶。

厳粛のうちに祭典は斎了となった。

平成三十年お正月

午前零時、神職の打つ太鼓の音と境内の二千灯の燈灯が順次点灯、初詣の参拝者からは拍手と歓声が上がり、新しい年を迎えた。今年は今上陛下ご即位三十年の慶節の年で、また明治維新百五十年の節目でもある。三が日は好天に恵まれ、鳥居の外まで参拝者の列ができた。

崇敬奉賛会 新年祈願祭

寒さが一段と増した一月八日に崇敬奉賛会の新年祈願祭が執り行われた。十一時より三宅会長以下会員は本殿にて新年祈願を行い、新しい年の平和と安寧をご英霊に願った後、会場を参

集殿へと移し、祈願祭でもご奉納いただいた西川かをり氏の琴の調べを、春らしい曲に乗せて聞かせていただいた。

その後、乾杯。和やかな雰囲気の中、会は進み、参加者それぞれが今年の抱負や思いを述べ、本年も賑やかな直会となった。

建国祭開催

紀元二千六百七十八年を祝う「建国祭」が、二月十一日開催された。姫路郷友会、霊友会、隊友会、日本会議の4団体からなる「建国の日を祝う会姫路実行委員会」が主催。着物姿の女性参加者も見られ、さながら「第二のお正月」という雰囲気であった。

午前九時より参集殿二階で、講演会が開かれ一二〇名が集まった。初めに、日本会議兵庫会長の三木英一氏は、日本書紀の「天壌無窮の神勅」や「建国の大詔」を解説。神武天皇が三種の神器を安置し、早朝に儀式をあげる様子をイメージしながら、建国の精神について考えを深めることができた。また、昭和天皇が皇太子時代の侍講、杉浦重剛の資料をもとに、三種の神器（鏡・勾玉・剣）は「智・仁・勇」の三つの徳を表すが、それを「実践躬行（理論や信条を自ら身をもって行うこと）」することが重要であると教えたことを話した。

続いて、自衛隊兵庫地方協力本部の徳村文彦氏が、南スーダンでのPKOの経験をスライドを使って発表。首都ジュバに宿営地を設置し、道路や橋の建設、土地の造成などインフラ整備にあたった。さらに、部族間の衝突によって避難民が押し寄せ、給水やトイレ設置などの支援にも従事したという。「日々の訓練がなければ活動できない」と語り、帰国して「日本がいかに恵まれているかを感じた」と話した。姫路駐屯地ではPKOを経験した隊員が多く、PKOが私達の身近にあることを理解できた。

初の女性の講師として、あい☆えがお代表の山本えり氏が、皇居の清掃奉仕での天皇皇后両陛下のご会釈の体験を披露した。「一瞬にして清らかな空気に変わった」のを感じ、皆に微笑みかけられる両陛下の姿を拝見でき、ありがたい時間であったと語った。さらに、陛下が注文される銀座のナイルレストラン・二代目ナイル氏の話を紹介。「普段の御所での陛下のお姿はもっと尊い姿。日本は素晴らしい方を戴いている国、なぜ国民は目覚め、動かないのか」と山本氏たちに熱く訴えたという。参加者の中には涙を拭う姿も見られた。

講演会の後、参加者は本殿前に移動。十一時より厳粛な空気の下、神事が執り行われ、参加者は二百名を超えた。続いて、奉祝式典がおこなわれ、大小たくさんの日の丸が境内になびいた。全員で橿原神宮を遥拝し、実行委員会の福本正明会長（姫路郷友会長）による主催者挨拶、来賓挨拶があり、「紀元節」の歌を全員で奉唱、万歳三唱して式典を終えた。

一連の行事の後、参加者は温かいうどんや御座候を味わいながら、建国の日のひとときを神社で過ごした。

シリーズ 英霊の戦場（十）

ビルマで戦った姫路の歩兵第百十一連隊

ビルマ（現ミャンマー）戦場の概要

（○番号は地図の地名位置を示す）

歩兵第百十一連隊の戦闘を理解して頂く為に背景となったビルマ作戦の大要を少し長文になりますが紹介します。

昭和十七年初頭、ビルマに進攻した日本軍は同年八月頃まで全連合軍を国境外に撃退し、更に北東の国境を越えて雲南に進出し中国軍を支援する連合軍補給ルートを遮断した。然し態勢を立て直した連合軍（英印軍・米軍・中国軍）は昭和十八年十月頃からビルマ奪回作戦を開始した。

日本軍はこの連合軍を撃退すべく十九年三月インパール作戦を敢行したが失敗に終わり精鋭三箇師団は壊滅状態となる。又、雲南方面の補給ルート遮断作戦も守備隊の玉砕で断念し、ビルマの方面軍（日本）兵力は甚大な損害を被った。

十九年七月頃からビルマの防衛は崩壊の兆しが顕著となる。更に絶対国防圏外となったため制海・制空権を失い孤軍奮闘する戦場となった。

方面軍（司令部はラングーン・現ヤンゴン）①（第十五・第三十三・第二十八軍）はイラワジ河畔で態勢を立て直し急追来攻する連合軍に対し河川障害を利用して反撃しようとした。

第十五軍（第十五師団・第三十三師団・第三十一師団・第五十三師団）マンダレー②一帯のイラワジ河左岸正面に主反撃軍として配備

第三十三軍（第十八師団・第五十六師団）は第十五軍の右翼を援護するためラシオ③以南のシャン高原内に配備

第二十八軍（第五十四師団〔**隷下に歩兵第百十一連隊**〕・第五十五師団・第二師団）は第十五軍の左翼を援護するためエナンジョン④一帯に配備、特に連勝の第五十四師団は戦意旺盛であった。

昭和二十年一月彼我の主戦力を投入してイラワジ会戦が開始、制空権を掌中にした機動力・突破力に優れた連合軍は方面軍の防御陣地を随所に突破し、三月三日にはメイクテーラ⑤が占領される。第十五軍はシャン高原に敗走。

第三十三軍はトングー付近⑥で連合軍を阻止して機動力を損なう雨期（五月頃）まで持久作戦を図ったが、連合軍の突進速度は速く四月二十二日にはトングーを突破されラングーンを目標に南下した。敗走する日本軍の様相を見たビルマ軍は日本軍に反抗して一斉に叛乱を起こした。方面軍司令部はモールメン⑦に脱出、ピンナマ⑧で撃破された第三十三軍はシッタン河東岸沿いに南下、五月中旬同河口を占領、然し敗走を続けた日本軍はトングー東方シャン高原とビルマ南東隅に追い詰められた。

第二十八軍は左記の戦況から敵中に取り残され孤立していると認め、雨期の最盛期を利用してペグー山中に兵力を集結してシッタン河突破脱出をすべく準備、二カ月間山中の行動は食料欠乏と悪疫に苦しみ多数の死亡者を出した。七月下旬軍は十数個の突破縦隊に分かれて一斉にシッタン河を目標に突進した。然し体力の衰えた将兵は濁流を乗り越えられず溺死やマルタバン湾まで流された兵士が多く居た。

山中に集結した兵力は三万四千名であったが無事渡河して友軍線戦に到着したのは一万五千名余であった。戦史上稀に見る惨烈な状況下にも拘わらず成功した突破作戦であった。

歩兵第百十一連隊は当初インパール作戦を成功させるため、ビルマに派遣されたが、ビルマ防衛戦の崩壊に巻き込まれ悲惨な戦場の所々で力戦奮闘するも大半の戦力を失って終戦を迎えた。

名古山霊苑
碑　文　初代連隊長 木庭知時
建　立　昭和42年4月5日
生存者一同
戦没者 2633名

歩兵第百十一連隊

創設

姫路市で昭和十五年九月二十七日創設
初代連隊長　木庭知時大佐　連隊長旗を親授

動員

昭和十八年二月二十六日動員下令、三月十日宇品港出港、四月十日ジャワ島スラバヤに上陸

東部ジャワ島の防衛に任ずる

木庭連隊長は軍紀厳正を以て上陸後も築城と厳しい訓練を継続、精強連隊の自信を育成、島民の信頼を得ると共に海軍将兵との信頼関係を築く。

ビルマ転進の経緯

昭和十八年十月ビルマ転進命令、十九年一月ビ

ルマのアキャブ⑨に上陸、この時輸送船団護衛に海軍は駆逐艦を随伴させた。連隊は第五十五師団隷下となり、アキャブの防衛に任ずる。

第一次カラダン作戦（十九年二月～六月）

二月、ミョウホン⑩付近で連合軍八十一師団の猛攻に苦戦中の連隊を救援するため木庭連隊長は支隊長（連隊に砲兵部隊等が配属）となり大胆な包囲機動を駆使して大損害を与え敗走させ、更に再興して攻撃を繰り返す同師団を撃退する戦功を上げ、感状が全軍に布告された。

アラカン以西の作戦（十九年七月～二十年三月）

インパール作戦が失敗すると連合軍の反撃は勢い付き、戦線は崩壊状況を呈する様相となる。連隊は二月第五十四師団（師団長宮崎繁三郎中将）隷下となり連隊長は矢木孝治大佐と交代、宮崎師団長は連合軍の猛追撃を阻止するためアン⑪付近で敵師団を峡谷に誘い込み包囲殲滅すべき反撃を実施、大損害を与えたが敵は退路遮断部隊に全火力を集中して開放させ危機を脱した。終戦後、英印軍師団長が退路遮断部隊長（第二大隊長）に自軍が全滅を免れた事に謝辞を述べた。

アラカン以東の作戦（二十年四月～五月）

アンで敵の猛追を阻止した連隊は最短距離でイラワジ河を渡河しようとミンブ⑫に向かったが対岸は既に敵が占領しているとの偵察報告によりアラカン山中をブローム⑬まで南下した。既に此処も敵が占領済、連隊長はカマ⑭で敵の隙を狙って渡河する作戦に決し、師団の渡河作業隊の奮戦により突破、敵の激しい反撃を破砕して大半が渡河に成功、五月二十八日集結地のポーカン⑮にて敵の追撃に備えた。

ペグー山系突破戦闘（二十年六月～七月）

ポーカンの戦闘

敵は六月七日より砲爆撃を駆使して執拗な攻撃を繰り返したが連隊は多くの死傷者を出すも撃退した。尚、コレラが発生し病死者が続出。尚、この山系における戦闘は生存者の証言から悲惨の一語に尽きる。雨期の中、食料も無く、村民は大半が日本兵に好意的であったが、敵に密告・密偵する者や敵のゲリラに協力する者も多く、日本兵の位置を正確に連絡するので精度の高い空爆や銃撃で多くの日本兵が斃れた。

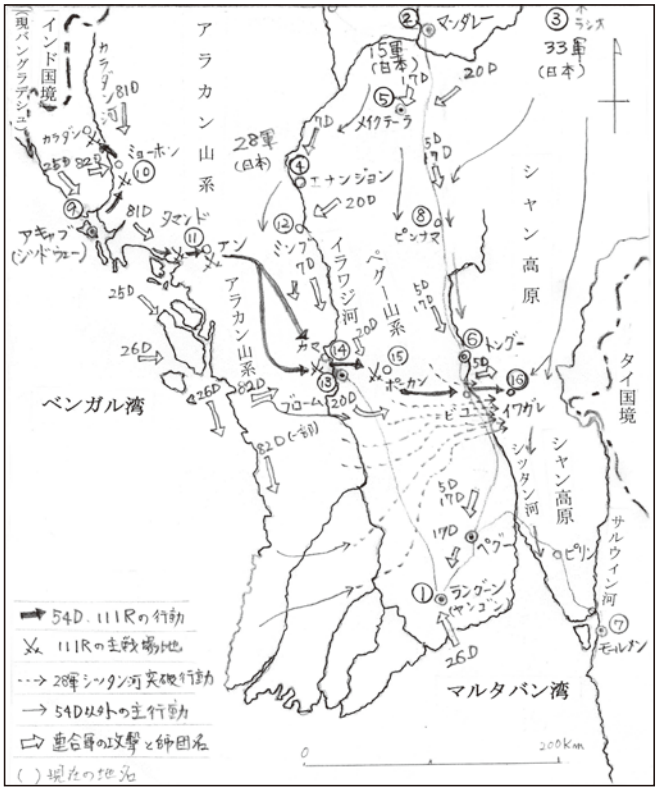
シッタン平地突破戦闘（二十年七月～八月）

矢木連隊長の戦死

七月二十一日シッタン河渡河準備のため部落に入ったところ村長の計らいで食事の接待を受けたその時、付近に銃撃音がしたので状況を確認中ゲリラに狙撃された。

二十八日の渡河決行まで敵の伏兵や戦闘攻撃及び砲爆撃で更に多くの将兵が戦死した。連隊でも体力の消耗した多くの兵士が渡河中濁流に飲み込まれた。

渡河後連隊は八月九日シャン高原イワガレ⑯に集結完了し体力と戦力の回復に専念、二十三日シッタン河左岸に向かい前進中終戦の命を受ける。



ビルマにおける歩兵第111連隊戦闘経過図（現ミャンマー南東部）

歩兵第百十一連隊　総員三一一名

戦死者　二六三三名　生還者　四七八名

護國神社に祀られているご英霊　一四〇八柱

英国軍最高指揮官マウントバッテン中将は戦後ビルマ奪回作戦に精魂を傾けた自国軍に戦友会を結成させ、「日本軍の強さ」を称え続けることを言及した。

出典　防衛省戦史叢書（英国公文書含む）
歩兵第百十一聯隊史（聯隊史編纂委員会）
ビルマ戦線崩壊の真相（田中　豊著）

（文責　姫路護國神社
崇敬奉賛会理事　曽田孝一郎）

日誌抄

二十九年九月～三十年三月

平成二十九年

九月一日　宮司全国神社総代会為埼玉県大宮市へ出向
九月一日　兵庫県神社庁姫路支部抜穂祭出向
九月一日　兵庫県神社関係者大会三田市出向
九月十四日　船詰狂言実行委員会正式参拝
九月十七日　神宮大麻頒布始祭出向
九月十八日　兵庫県神社庁役員会出向
九月二十日　神宮にて庁長会出向
九月二十日　書家（平和一）揮毫　正式参拝
九月二十日　兵庫県神社庁大麻頒布式出向
九月一日　しらさぎ吟詠会清掃奉仕
十月一日　神戸市北区遺族会参拝
十月三日　近畿神社庁連合総会へ出向舞子ビラ
十月三日　滋賀県神社関係者大会へ出向
十月十三日　兵庫県神社庁役員会へ出向
十月十八日　神社本庁役員会へ出向
十月十九日　佐用三河慰霊祭
十月十一日　宍粟市遺族会慰霊祭
十月十一日　戦没学徒慰霊祭へ出向　淡路
十月十四日　佐用西庄慰霊祭
十月十六日　佐用徳久慰霊祭　奈良県神社関係者大会へ出向
十月二十八日　城東老人会清掃奉仕
十一月二日　秋季大祭
十一月五日　佐用三日月分会慰霊祭
十一月六日　佐用中安分会慰霊祭
十一月七日　姫路地区神社関係者大会
十一月八日　スローな縁日　境内終日
十一月十三日　大阪天満宮寺井宮司長老祝賀会出向
十一月十五日　マンゴ会慰霊祭
十一月十四日　埼玉県三峰神社出向
十一月十七日　愛知県三河部尾張部遺族会参拝
十一月十九日　神社総代会
十一月二十日　市川町高美会かしめ縄奉納
十一月二十一日　城巽老人クラブ清掃奉仕
十一月二十五日　神宮新穀感謝祭参列宮司
十一月二十七日　提灯架設開始
十一月二十七日　七十名清掃奉仕正式参拝
十一月二十三日　煤払祭
十一月二十五日　試験点灯
十一月二十七日　大祓式・除夜祭

平成三十年

一月一日　歳旦祭
一月一日　姫路剣道連盟祈願祭
一月七日　市川町しめ縄グループ参拝
一月八日　崇敬奉賛会新年祈願祭
一月九日　日本会議新年祈願祭
一月十二日　自衛隊兵庫協力本部姫路地域事務所祈願祭
一月十二日　姫路遺族会正式参拝
一月十八日　姫路商工会議所青年部宮司講話
一月十九日　賀茂流碑管理委員会清掃奉仕
一月二十日　兵庫県神社庁役員会出向
一月二十九日　神社本庁役員会出向
二月一日　建国祭
二月一日　貴船神社正式参拝
二月三日　全国護國神社会出向
二月四日　神道政治連盟舞子ビラ出向
二月七日　伊勢神宮出向
二月八日　宗教行政懇談会出向
二月十四日　建国祭反省会
二月十五日　佐用幕山地区慰霊祭・兵庫県神社庁役員会協議員会出向
二月十九日　神社総代役員会
二月二十日　神社総代会総会
二月二十一日　佐用久崎地区慰霊祭　賀茂流碑祭
二月二十二日　神社本庁役員会出向
二月二十七日　小野市遺族会参拝
二月二十八日　京都府神社総代会出向

明治維新のご祭神

河合惣兵衛の碑

江戸中期には各藩に、盛んに藩校が作られました。姫路藩では好古堂という藩校が教育熱心な藩主酒井家が開きました。好古堂がいわゆる公立に当たりますが、私立の素晴らしい学校も作られました。河合寸翁が作った仁寿山校です。河合寸翁は若くして姫路藩の家老になり、財政の立て直しに努力したり新田開発や港の整備も力を入れました。仁寿山校は自由で活発な校風があり、頼山陽なども教育に当たりました。自由な校風のせいか尊皇攘夷を掲げて世の中を変えようとした人たちも育ちました。河合惣兵衛、河合屏山、秋本安民、境野求馬、河合伝十郎たちです。河合惣兵衛らは藩主の酒井忠績や重臣に尊王攘夷を訴えますが姫路藩は徳川方の有力藩であり、聞き入れられず最後には捉えられ罰せられます。「甲子の獄」といい、記念碑（刑場跡）が建てられています。また神和町の公園には河合惣兵衛の碑が建てられています。

兵庫縣姫路護國神社の最初のご祭神は「甲子の獄」で斬首や自刃で亡くなった八柱、そして明治維新の先駆けとなった生野義挙でなくなった郷土の方々併せて二十一柱です。

明治維新ののち日本が近代国家になる途上、日清、日露戦争から大東亜戦争終結に至るまで、戦役事変で亡くなった方々（兵士、看護婦、軍属）五万六千九百八十八柱を祭神としています。私たちはこの方々が守られた国土の上に生活しているということをこの明治百五十年の節目に改めて感謝致しましょう。

姫路藩勤皇志士記念碑

明治維新のご祭神

河合傳十郎命　江坂榮次郎命　江坂元之助命　松下銕馬命　伊舟城源一郎命　河合惣兵衛命
萩原乕六命　市川豊次命　今井三郎右衛命　千賀九左衛門命　大高又次郎命　千葉郁太郎命
高橋甲太郎命　大高忠兵衛命　多田弥太郎命　黒田與一郎命　中島太郎兵衛命　太田六左衛門命
中條右京命　仲井万太郎命　境野求馬命